

## 第2章 中間育成技術開発

### 1. 中間育成試験

#### 1) 目的

中間育成上の基礎的な知見の蓄積と問題点を抽出するため、平成7年度に生産した稚貝を用いて中間育成試験を実施した。

#### 2) 材料と方法

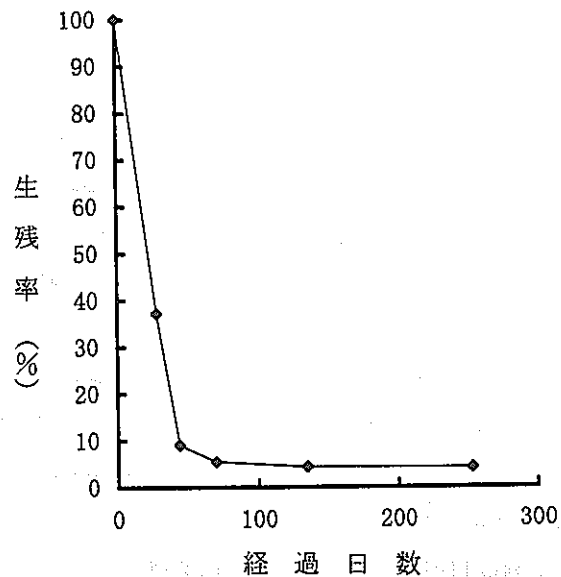
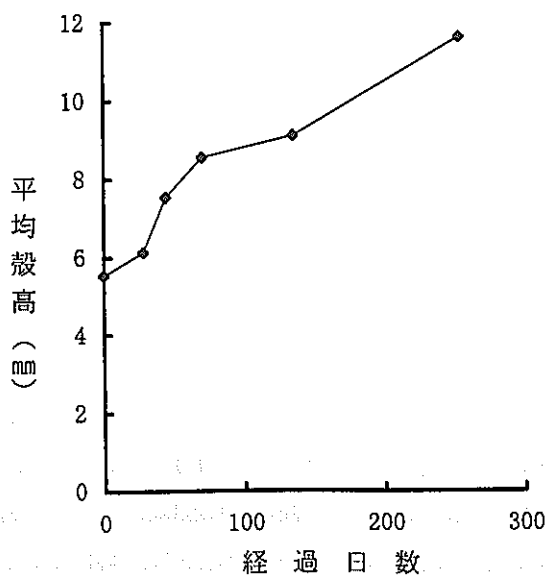
平成7年11月から平成8年8月までの間に殻高5mmに達した稚貝57,926個体を中間育成水槽に収容した。中間育成水槽はネットで水槽内を二重底にした5t角形FRP水槽4面を使用した。ネット上には塩化ビニール製200mmパイプを縦割りし、30cmの長さに切断したシェルターを設置した。餌料には紅藻類のマクリ、イバラノリ及びアワビ用配合餌料を用いた。

#### 3) 結果及び考察

平成7年度生産貝の中間育成状況を表Ⅱ-1、成長と生残の推移を図Ⅱ-1に示した。収容時に平均殻高5.5mmであった稚貝は70日目に8.56mm、253日目の平成8年8月6日には11.6mm、日間成長量では24.0 $\mu$ m/日と昨年度の63.1 $\mu$ m/日に比べて、著しく緩慢な成長であった。生残率は28日目に37.1%、44日目は9.03%と著しく急激に低下し、試験終了時の253日目には4.18%に減少した。大量へい死が起こった冬期の間、硫酸ストレプトマイシン(100ppm)、オキシテトラサイクリン(100ppm)及びペニシリンG(150ppm)で2時間の薬浴を行ったが、効果は認められなかった。平成8年2月3日、4月10日及び5月14日には稚貝の細菌検査を実施したが、細菌は検出できなかった。

表Ⅱ-1 平成7年生産稚貝の中間育成状況

中間育成開始時(96/11/27)	
平均殻高(mm)	5.52
収容個体数	57,926
中間育成終了時(96/8/6)	
飼育日数	253
平均殻高(mm)	11.6
日間成長量( $\mu$ m/日)	24.0
生残個体	2,420
試験用	2,420
生残率(%)	4.2



図Ⅱ-1 中間育成時の成長と生残の推移